麻生学園小学校

校長室だより

NO．２４　　発行：校長　　R８．１０／２９(木)

「運動会」へのご参観・ご声援、誠にありがとうございました！



２５日（日）に予定していました「運動会」でしたが、雨のために延期の判断をさせていただきました。子ども達も、職員である私達も、この日を目標に練習して高めてきていましたので、とても残念な思いでいっぱいでした。それは、保護者の皆様も同様のことだと思います。保護者の皆様にとっては、やはり日曜日の開催に、ご家族でお子様の姿を応援できることを楽しみにしていらっしゃったことと思います。平日開催となると、お仕事等でなかなかご都合がつかず、お子様の頑張っている姿を直接応援できないことに、もどかしい気持ちだったのではないでしょうか。

そうした中ですが、昨日（２８日）には、子ども達は気持ちを切り替えて、精一杯に力を発揮し、立派な「運動会」を作り上げることができました。それも、当日、何とかご都合をつけていただき、ご参観下さった保護者の皆様が、ご自身のお子様ばかりでなく、どの子ども達へも温かなご声援をしてくださったからに他なりません。子ども達に力を与えてくださり、本当にありがとうございました。

子ども達のこれからの人生において、何もかもが順風満帆に行くとは限りません。**思うようにいかないこと、予定していたことが出来ずに気持ちが萎えてしまうこと等があるかもしれません。そうしたときの周りの応援や声掛けが、新たに気持ちを湧きたたせ、前を向く力を与えてくださる**ことを今回の「運動会」から改めて感じた次第です。本当にありがとうございました。

感じたことから

○「共に喜ぶのは二倍の喜び、共に苦しむのは半分の苦しみ」



この言葉は、元上智大学の人間学教授である**アルフォンス・デーケン**氏が記したある著書の中で紹介されているものです。

人は、自分に何か嬉しいことや楽しいことがあると誰かに聞いてもらいたくなります。子ども達の日常においても「ねぇ、先生、聞いて、聞いて」と話しかけてきて、先生の**共感を得ると、さらに喜びを深めている**様子をよく見かけます。

それとは対照的に、苦しみを一人で抱え込んでしまって、その心の苦しみをどんどん膨れ上げてしまい、暗い表情になってる様子を見かけることもあります。そんな時、その苦しみを抱え込まずに率直に**誰かに話すことができれば、苦しい気持ちは緩和され、心を少しでも穏やかにすることができる**でしょう。

この二つのことを上記の言葉は語っているように思います。

今回の運動会でも、「走」の競技で早かったこと、「表現」の演技で伸び伸びと踊れて大きな拍手をもらえたこと、赤白の競い合いで勝てたこと等、子ども達一人一人に様々な喜びが生じたことでしょう。これらのことを**お家の方に認め褒めていただくとともに喜んでもらえると嬉しさや喜びは二倍に膨らむ**ことと思います。



それに対し、「競遊」や「リレー」等で悔しい思いをしたり、与えられた役割をしっかり果たせずに失敗してしまったりしたこともあるかもしれません。そんな時の暗い表情を察して、**悔しく残念な気持ちに共感してあげると、苦しみは半減される**ように思います。

まして、今回の運動会のように延期となり、お家の方に見ていただけなかったお子さんは、**お家の方に伝えたい思いはたくさんたくさん膨れ上がっている**ことでしょう。ぜひ、その言葉に耳を傾け、**子ども達の「喜び」を二倍にしてあげたり、「苦しみ」を半分にしてあげていただければ**と思います。そうすると、今回の「運動会」は、お家の方に見ていただけなかったにしても、きっと子ども達にとってはかけがえのないものとして心の中にずっと残っていくことでしょう。